

1. 件名：柏崎刈羽原子力発電所 6 号炉及び 7 号炉における基準地震動の変更が不要である説明文書に関する面談について
2. 日時：令和 4 年 1 月 1 8 日(木) 1 6 時 0 0 分～ 1 7 時 5 0 分
3. 場所：原子力規制庁 9 階耐震会議室
4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）
原子力規制庁 原子力規制部 地震・津波審査部門
内藤安全規制調整官、熊谷管理官補佐、佐口主任安全審査官、谷主任安全審査官、海田主任安全審査官、磯田係員、松末技術参与
原子力規制庁 長官官房技術基盤グループ 地震・津波研究部門
呉地震・津波政策研究官
東京電力ホールディングス株式会社
原子力設備管理部 建築総括担当部長 部長 他 8 名※
5. 自動文字起こし結果
別紙のとおり
※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
6. 提出資料
〈〈本年 1 月 1 1 日に受取済み〉〉
・柏崎刈羽原子力発電所における標準応答スペクトルに基づく評価について

| 時間 | 自動文字起こし結果 |
|---------|---|
| 0:00:01 | 原子力規制庁タニです。 |
| 0:00:03 | それでは面談を始めたいと思います。今日の内容としては柏崎刈羽原子力発電所における標準応答スペクトルに基づく評価についてということで、 |
| 0:00:13 | 行いたいと思います。まずですね資料の内容について、東京電力から説明をお願いいたします。 |
| 0:00:21 | はい東京電力杉本でございます。それでは資料の方、1 ページ目のコメントリストの中にご説明をさせていただきたいと思います。1 ページ目ご覧いただきまして、 |
| 0:00:33 | 前回会合を 12 月 3 日にいただいたコメントをこちらの方に整理してございまして 1 から 7 番の方番号につけさせていただいてございましてこの順番でご説明をさせていただきたいと思います。資料の方共有してませんのでページ番号的にご説明しながらご説明するようにいたしますよろしくをお願いします。 |
| 0:00:51 | まず 1 点目で、逆解析モデルの一部地下構造モデルの逆解析のターゲットと用いました地震につきまして、選定における考え方や敷地の設定の考え方を説明することと。 |
| 0:01:04 | ということでございまして 19 ページの方をお願いいたします。 |
| 0:01:13 | 選定の考え方につきまして前回は敷地だけの御説明となっておりましたので、考え方について整理をさせていただいているということでございます。ターゲットは敷地で多く獲られている観測記録の中からもなるべくばらつきが小さくなるように、 |
| 0:01:28 | 選定したいと、ということで、次のような絞り込みを行って選定しているということでございまして、まず、答申の拒否についてでございますけれども、これは敷地周辺の伝播特性が記録に適切に含まれているものということで、敷地から信用距離 100 キロ以内の地震をまず用いているということでございます。 |
| 0:01:47 | それから、地震規模については、まずは記録の精度を確保するために、小さい地震を除くということで、M4.5 以上としまして、影響大きい地震の方については、6. M6.0 を超える地震では断層面の大きさが数キロ四方となりまして、 |
| 0:02:03 | 震源の破壊伝播の影響が無視できなくなるということを踏まえまして、M6.0 以下ということで用いてございます。またですね地震規模が大き |

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| | い地震と小さい地震を組み合わせると、ばらつきが大きくなるということもございましたので、 |
| 0:02:17 | 複数の地震を集めてくる中では地震規模の差を 0.5 以内として選定をしたということでございます。 |
| 0:02:24 | それから見かけの入射角につきましては、これは大きくなればなるほど P S P 時間が長くなりましてレシーバー関数の特徴が把握しやすくなるということもございますけれども、大きすぎますと今度御嶽の入射角と、 |
| 0:02:38 | それから実際に地震はですね深部から潜り込んで伝播してくる時の入射角とでは乖離が大きくなっていくということも踏まえまして、あとは敷地で多く気楽替えられている範囲というものも考慮しまして、 |
| 0:02:51 | 結果 60° から 80° の地震を用いているということもございます。それから理論長利子レシーバー関数の理論値を計算する際、 |
| 0:03:01 | ですねエイチオーバーバイとレシーバー関数の理論値を計算する際に、見かけ入射角が 10 度程度変わってくると正常に違いが出てくると、いうことも踏まえまして、こちらが複数の地震を集めてくるという中では見かけの入射角の差を 10 度以内ということで、 |
| 0:03:17 | 選定をしています。それから後発生位置につきましてはですねこのままなるべく同じ伝播経路の記録をスタッキングして用いるという観点から概ね、 |
| 0:03:26 | 等発生時の地震分を選定したいと。 |
| 0:03:30 | ということで複数の記録発言の中では、P 波部の検討に用いる地震では、共振の距離の差、それから、それぞれの心嚢間の距離は 3 キロ以内といたしました。 |
| 0:03:40 | 兎玉の検討に用いる地震についても P R と伝播経路正論整合させるために、P R A と同様の領域で発生した地震を用いたということもございますこれらの選定の考え方でございます。 |
| 0:03:53 | それから前回ご説明させていただきましたようにターゲットとして用いた地震が敷地の観測記録を代表したものになっているかという検討これは 26 ページ以降になりますけれども。 |
| 0:04:06 | こちらで行ってございます。その際には条件がある 10203 という形で檀徐々に段階的に絞り込んだ場合の検討ということを行いましたのでその際の敷地の考え方につきましても次の 27 ページの後に、 |
| 0:04:21 | 改めて詳細に整理をしてございます。 |

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 0:04:25 | 考え方としましては今ほどご説明したものと同じでございますが、こうやって条件を絞り込んだときにどう考えたかということ、改めてこちらに来ていただいている。 |
| 0:04:34 | ということで選定の考え方についてはご説明以上でございます。 |
| 0:04:39 | 続きまして2点目のコメントでございまして、イトーキ羽生1岡部スペクトル比、それからレシーバ関数についてターゲットに用いた地震とは異なる傾向にある観測記録に対する分析を示すことと。 |
| 0:04:52 | ということでございまして、今ほど1点目のコメントでご説明させていただいたような考え方でターゲットを絞って選定しているということで、その代表性を示すために前回会合では引き上げられた多くの観測記録を用いた検討を示しさせていただきまして、 |
| 0:05:09 | その際にご指摘いただきました点も踏まえまして、ターゲットに用いた地震と、それから全観測記録を見た時で異なる傾向にある観測記録と、ということでこちら32ページの方に整理をさせていただいてございます。 |
| 0:05:26 | まずBFエイチオーバーブイスpekトル比ですが、こちら荒浜湊共通でございまして、2Hzから3Hzの間に見られるピークの週初、こちらにやや違いが見られるということでございます。 |
| 0:05:40 | それからレシーバ関数につきましては、これは荒浜港で確認する、すべき点がそれぞれございまして、荒浜の方では、1秒以降に見られます四つのピークのうち、 |
| 0:05:52 | 一番前ですね、1.2秒付近に見られているBPSのこちらについてはこれはターゲットに用いた地震ではフラットな形状になっていって、ごみ量のピークと趣味以内ということでございます。 |
| 0:06:06 | そういった違いがあると思います。一方、湊側につきましては1秒付近に見られるピークの時間、こちらにやや違いが見られるという検討、それから0.6行付近や1.5秒付近に明瞭なピークが見られるなど、全観測記録の中にはターゲットと傾向が異なる図示が存在すると。 |
| 0:06:24 | ということで、これらの要因について分析を行っているということでございます。 |
| 0:06:29 | 分析につきましては、理論値のパラメータスタディとそれから観測記録の整理の両面から実施してございまして、まずは理論値の入射角を変化させた場合に、どういった変化が生じるかという確認を行ってございます。 |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 0:06:43 | それから、観測記録を到来方向別に整理いたしまして、到来方向による違いについても確認を行っているということでございます。検討、以降33ページ以降ですね。 |
| 0:06:55 | まずは荒浜側の方です。33ページでは、既存地の入射角を変化させた場合の検討を示してございまして、入射角は45°から85°までを変化させて検討してございます。 |
| 0:07:09 | P R A情報部につきましては、入射角を変化させますと、2H zから3H zのピークの周波数、こちらがどう変化するというを確認してございます。 |
| 0:07:20 | それから、レシーバー関数につきましては、まず0.6秒から0.7秒付近のこの一番前のピークですね、この時間は入射角を変化させても変わりませんけれども、 |
| 0:07:30 | それ以降1秒以降に見られるピークの時間は、入射角を変化させると変わってくるということを確認していると。 |
| 0:07:37 | それから、1.2秒付近のピークですね、これにつきましては、入射角が70°程度ではフラットな形状となっておりますけれども、入射角を変化させる状況によりまして、これがピークとして見られるようになってくるということを確認しているということでございます。 |
| 0:07:53 | 従いまして荒浜側の全観測記録とターゲットで見られましたその違いにつきましては、傾斜角を変化させた場合に生じる傾向とか整合しておりますので、入射角の影響により生じるもの。 |
| 0:08:05 | であるというふうに考えてございます。 |
| 0:08:08 | 続きまして34ページの方ですね、こちらでは今度は観測記録の分析ということで、到来方向により整理をいたしてございます。 |
| 0:08:18 | 既許可で行いましたその観測記録の分析と同様にいたしまして、委託を30度ごとに分割いたしまして、各領域での記録をスタッキングして比較をしているということでございます。 |
| 0:08:31 | 院長はVスペクトル比につきましては、逃げる時から3H zの間にピークが見られるという特徴はこれは到来方向に売らず変わらないということを確認してございます。 |
| 0:08:43 | それから、レシーバー関数につきましては、一番前の0.6秒から0.7秒付近のピークの時間はこれも到来方向によらず、変わりませんで、衛藤一行一方、 |
| 0:08:54 | 2、四つのピークが見られるという特徴も、これも到来方向によらず変わらないということを確認してございます。 |

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 0:09:01 | 1.2 秒付近のピークについては領域によって振幅が小さかったり明瞭に見られたりという違いは若干ございますけれども、その出現時間参って 2 秒程度のところで出てくるという、属長は変わらないということも確認してございます。 |
| 0:09:17 | 従いまして荒浜側については宝来方向によって設計上が大きく特徴が異なるという傾向は見られないということを確認しているということでございます。 |
| 0:09:28 | 以上、荒浜側の分析検討でございました。 |
| 0:09:32 | 続いて 35 ページが大湊側の方でございます。こちらの先ほどと同様にまずニューシャ学校変化させた場合ということで、こちら理論値の検討ですのでこれは荒浜側と傾向同様でございますして、P 波部エイチオーバーブイについては、逃げる力か並列の間に見られる。 |
| 0:09:51 | ちょっと、それからレーザー関数の方については 1 秒付近以降に見られる、R I P これは入射角を変化させると違いが生じると。 |
| 0:09:59 | いうことを確認してございます。しかしながらですね |
| 0:10:02 | 全観測記録のレジ分割の一部に見られた 0.6 秒付近のピークというものについてはこれは入射角を変化させる生じないと。 |
| 0:10:11 | いうことでございますので、入射角以外の影響を受けているというふうに考えられるということでございます。 |
| 0:10:19 | 続いて 36 ページが、本多観測記録の方を到来方向別に整理をしてございますけれども、P 波部エイチオーバーブイスペクトル比については、2H z から 3H z の間にピークが見られる特徴、これは到来方向に選ぶ変わらないと。 |
| 0:10:33 | いうことを確認してございますけれども。 |
| 0:10:35 | レーザー関数の方ですね、こちらは領域の 1 からケアの右の上の方で下の四つの方になりますけれども、これらでは 1 秒付近に大きなピークが見られると。 |
| 0:10:47 | いうことに対しまして、領域 B から紙上の二つでは 0.6 秒付近と 1.5 秒付近に大きな傾向が見られるということで、湊側では到来方向によって、特にレーザー関数の特徴が異なる。 |
| 0:11:01 | いう傾向が見られるということでございます。 |
| 0:11:06 | この点につきましてですね 37 ページ以降の湊側で、将来方向により特にレーザー関数の特徴の異なる傾向が見られたということで、この違いが同定される地下構造モデルに与える影響について、さらなる分析を実施しているということでございます。 |

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 0:11:24 | レシーバー関数が異なる要因としましては、褶曲構造の影響ということになりますけれども、 |
| 0:11:31 | 江藤上部寺泊層と下部寺パドマ理想の衛藤境界面。 |
| 0:11:37 | タニこの青の三角でお示ししてところが鉛直アレイの間、 |
| 0:11:42 | 当位置になりましてちょうどこの直下付近においてですね、この上部程度ある泊層と下部寺泊層の境界に高低差があると。 |
| 0:11:52 | ということで、これが到来方向によって、伝播経路上の層境界深さがこの二次元の断面でいまして左から来る場合と右から来る場合で、高低差があって操業会館が異なることによって、 |
| 0:12:05 | この境界面で生成されるP S変換の差異によってレシーバー関数の性状が変化しているのではないかとということが考えられるということでございます。 |
| 0:12:16 | 一方その一つ上の上ですねC S Oと上部寺泊層の境界面についても、ここは高低差はあるんですが、 |
| 0:12:25 | このP S検層の結果からはS波速度に明瞭な差は認められませんが、同定したモデルでも両者のS波速度には大きな差がないと、 |
| 0:12:36 | 右側のモデルでいきますと、V sで12001300ということで明瞭な差がないということでございます。で、そういったところも踏まえて影響を確認するためにということで、 |
| 0:12:49 | 上部寺泊層と下部寺泊層の境界面深さを变化させたモデル計算を行ったと。 |
| 0:12:55 | ということで、深さについては今、左側のモデルの絵で県線で示しておりますけれども、このモデルを参考に、1500-1.50メートルから-2020メートルの範囲で、 |
| 0:13:09 | 変化をさせているということでございます。 |
| 0:13:12 | 検討においてはP R Aジオパーク I Tレシーバー完成の影響を確認するとともにですね、その際の地下構造モデルの伝達関数に与える影響についてもあわせて確認を行いました。 |
| 0:13:24 | 結果の方は、衛藤 38 ページでございます。 |
| 0:13:28 | 評価へのパスを変化させますと、レシーバー関数の1秒付近に見られるピークの出現時間ですね、これが前後に大きく変化することが確認されました。 |
| 0:13:39 | また石原医長は部員の平塚さんH e a l t hの間に見られるピークの形状も、こちらに変化するということが確認されまして、特にその境界面 |

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| | の深さ柵下ケース 1000-1500 メートルのケースですね、こちらでレーザー関数野木の出現時間が早くなりまして、 |
| 0:13:58 | これは全観測記録のレーザー関数の一部に見られた 0.6 秒付近のピークの出現時間に近づく傾向ということでございます。これらのことから、上部寺泊層と下部寺泊層の境界面の深さが、 |
| 0:14:12 | 波の到来方向によって変化することによって観測されたレーザー関数に比較的大きなばらつきが生じたという可能性が考えられるというふうに考えてございます。 |
| 0:14:22 | で、一方これらのケースにおける地震基盤相当から解放基盤表面までのモデルの理論伝達関数を確認しますと、これは右側の絵をご覧くださいます通りもほぼ同じでございまして、 |
| 0:14:35 | この境界面深さの設定が、モデルの増幅特性に与える影響はほとんどないということを確認してございます。この二つの許可観測記録の分析におきまして、湊側では褶曲構造による、 |
| 0:14:49 | 到来方向による特異な増特性が見られないということも整合していると、いうことでございます。 |
| 0:14:58 | 39 ページの方いいいただきまして、こちらに実施しましたパラメーターと B の全結果と、それから観測記録。 |
| 0:15:06 | と大臣のモデルの理論値を比較してお示しをしております。P R A 上はポイントが 2 は、2H z から 3H z の間のピークの周波数の違い、それから、柴幹線の丸野 0.6 秒付近や 1 秒付近の計器の時間の違い。 |
| 0:15:22 | ということについては、入射角に加えまして、その上部寺泊層と下部寺泊層の境界面の深さが到来方向により変化することの影響を考慮したパラスターによりまして、 |
| 0:15:34 | 定性的な結果は再現できているものというふうに考えてございます。 |
| 0:15:38 | 以上をまとめましたのが 40 ページでございまして、 |
| 0:15:43 | 荒浜側では、入射角を変化させた場合に生じる傾向と整合しておりましたことから、主に入射角の影響によって、この江藤議長青井スペクトルとレーザー関数に違いが生じているものと、 |
| 0:15:58 | いうふうに考えられまして、到来方向によって特徴が大きく異なる傾向は見られませんでした。大湊側の方では、入射角を変化させた場合に生じる傾向だけではこれは説明ができないと。 |
| 0:16:10 | いうことございまして、入射角以外にも影響を受けて違いが生じているものというふうに考えられまして、これは到来方向により特徴が異なる傾向が見られました。 |

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 0:16:20 | 到来方向による影響につきましては、上部寺泊層と下部寺泊層の境界面の深さを変化させたパラスターを実施した結果、観測記録に見られた特徴を定性的に再現することができてございます。 |
| 0:16:33 | 一方で、この深さの変化が、地下構造モデルの増幅特性にH R影響はほとんどないということを荒上がって確認をしてございます。 |
| 0:16:43 | こういった分析を踏まえまして、 |
| 0:16:46 | 逆解析のターゲットに用いる観測記録の代表性ということに関して改めて考察を行いました。 |
| 0:16:53 | まず、入射角によりましてその観測記録に違いが生じるということにつきましては、入射角が類似する地震群をターゲットとして用いるということで、敷地の地下構造を代表するとみなすことができるモデルを贈呈できるものというふうに考えます。 |
| 0:17:09 | 入射角が異なる地震群を集めて、観測記録をスタッキングするということをしてしますと、敷地の地下構造の特徴が適切に反映されない、そこがなくなってしまうと適切に反映されない可能性がある、というふうに考えてございます。 |
| 0:17:25 | それから次に、到来方向により観測記録に違いが生じるということにつきましては、これは同じ到来方向の地震をターゲットに用いた上でですね、特徴が異なる到来方向の地震に対する分析や、この調査の検証を加えることによりまして、 |
| 0:17:42 | 敷地の地下構造を代表するとみなすことができるモデルを設計することができるというふうに考えてございます。やっぱり検討におきましては今ほどご説明させていただきました通り、 |
| 0:17:55 | 特徴が異なる観測記録を踏まえたパラスターから増幅特性への影響はないと、いうことを確認いたしまして、さらにこれは、ご説明済みですけれども、P S 検層結果ですとか、2次元地下構造モデル。 |
| 0:18:08 | 等を用いまして整合を検証していると。 |
| 0:18:11 | いうことでございます。以上従いまして、今回上程した地下構造図をモデル、こちらについては、荒花輪を湊川ともにですね、標準応答スペクトルの評価に用いる上で、敷地の増幅特性を代表するとみなすことができる1次元地下構造モデルであるというふうに考えてございます。 |
| 0:18:33 | 係長涌井とそれからレシーバー関数については以上でございまして、続いて三つ目のコメントでございまして、衛藤甲田部エイチオーバースペクトル比の方についてはですね、逆解析では一次ピーク周波数を重視してフィッティングさせていることの方を説明すること。 |

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 0:18:49 | ということでございましてこちら 42 ページをお願いいたします。 |
| 0:18:54 | こちらに考え方を整理してございまして、逆解析におきましては表面はである大田分については、HUBよりもより系周波数側を参照できますことから、 |
| 0:19:05 | 深部の速度構造を拘束できるという利点がございまして、その意見からターゲットとして用いてございます。 |
| 0:19:12 | 実際に本検討でやっていることといたしましては香田部は、系周波側の一次ピーク周波数のみをフィッティングすることで、深部の速度構造を補足しまして、 |
| 0:19:24 | それ以前の構造は、実態はである。HUBの再現を重視して、地下構造モデルを推定しているということでございます。 |
| 0:19:31 | 本検討と同様の考え方によりまして一次ピーク周波数のみをフィッティング色っていう知見としまして、植田ほか 2018 というのがございまして、その左下にございますけれども、 |
| 0:19:43 | 香田古市小栗スペクトル比の広州香川の振幅比までこれをフィッティングしますと、このP波部エイチオーバーブイスpekトル比等、それからレシーバー関数が同時に再現することが困難になるケースがあると。 |
| 0:19:56 | ということでございましてそこはP波部の、 |
| 0:19:59 | 院長河辺spekトル1レシーバー関数の再現を重視しまして、総額エイチオーバーブイスpekトル金については一時日、周波数のみをフィッティングさせるということを行ってございまして、 |
| 0:20:10 | これは菊ネット資金の地震基盤までの地下構造モデルを推定してその妥当性が確認されているというものでございます。 |
| 0:20:18 | また藤元の影響ということもご指摘ございましたけれども今回の逆解析においては一次モードまで考慮した理論値を用いてございますけれども、右にございますけれども、次モードまで考慮したり40トンとの比較も行いました結果、 |
| 0:20:33 | 高次モードの影響は大きくないということも今回確認をいたしてございます。 |
| 0:20:38 | 従いまして香田部の考え方につきましては繰り返しになりますけれども、一次ピーク周波数のマーキングということで深部の速度構造を取得しまして、それ以前は実態はTRPハープをより再現することで適切な地下構造モデルが評価できているものと、 |
| 0:20:54 | いうふうに考えているということでございます。 |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 0:20:58 | 地下構造モデルの逆解析に関するコメント 1 から 3 までのご説明につきましては以上でございます、 |
| 0:21:05 | 続いて四つ目のコメントでございます。こちらからが今度地下構造モデルの妥当性に関してということでございまして、荒浜側の水平方向の伝達関数については、 |
| 0:21:17 | モデルの理論値が大深度観測点から標高 - 400 メートルの期間で観測記録を下回る傾向にあるということでこれに対する要因の分析を示すことということでございまして、 |
| 0:21:29 | 55 ページをお願いいたします。 |
| 0:21:37 | ここでは一部の区間においてはその理論値が観測記録を下回る傾向があるということでございますがモデル全体の動特性として過小評価とはなっていないということを確認することを目的としまして、 |
| 0:21:51 | この地震基盤から解放基盤表面含む浅部までに負担を拡大して伝達関数の比較を検討しているというものでございます。検討の手順としましては、 |
| 0:22:02 | 荒浜側と湊側の大深度観測点、それとその一つ上の標高 300 メートルから 400 メートルの深部の観測点、この計四つを使いまして、 |
| 0:22:13 | それぞれ地震基盤の推定を行いました。その四つの地震基盤は、基準といたしまして、解放基盤より政一の観測記録との伝達関数、これを観測記録の伝達関数として算定をいたしてございます。 |
| 0:22:31 | これと、地下構造モデルによる理論伝達関数との比較を行いました、モデルの妥当性を検証したというものでございます。 |
| 0:22:39 | 対象とした地震については荒浜湊間で共通して、大深度の記録が獲られている三つの地震を使ったということでございます。 |
| 0:22:48 | 結果は 56 ページの方にお示ししてございまして、 |
| 0:22:53 | 荒浜側の大深度地震観測点から推定した地震基盤を用いた場合、こちらの絵でいきますと左から 2 番目になりますけれども、こちらを用いた場合には荒浜湊側ともにですねモデルの理論伝達関数が観測記録の伝達関数をやや下回る傾向にあると。 |
| 0:23:11 | ということで、この荒浜側の大深度観測点付近のですね一部の区間ではモデルの方が、観測記録よりもやや大きめの傾向となっているということが要因として考えられるということでございます。 |
| 0:23:24 | この観測点以外の三つの観測点から推定した地震基盤はを用いた場合には、これは荒浜野近江などは、主にですね。 |

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 0:23:34 | モデルの理論伝達関数と観測記録の伝達関数はよく整合しているということを確認できてございます。 |
| 0:23:41 | 従いまして、 |
| 0:23:43 | 地震基盤から解放基盤表面までのモデル全体としましては、モデルの理論伝達関数と観測記録の伝達関数が抑制をしていると、これは荒浜湊同じであるということで、 |
| 0:23:56 | 荒浜側の第1のモデルのその過小評価となっているものではないというふうに考えてございます。この荒浜側の区間について詳細に分割して確認したものを57ページにお示ししてございます。 |
| 0:24:09 | 前回ご指摘をいただいていたのは、この下から2段目のですね、条項-1017メートルから標高-400メートルの区間でございまして、 |
| 0:24:20 | ここがモデルが観測を下回っているのではないかとということでございましたが、今回その地震基盤までの検討を追加しました結果、一番下の段ですけれども、 |
| 0:24:31 | 新基盤から表5-1017メートルまでの区間ではP R A反対に、モデルが観測を上回るような傾向にございまして、これトータルしまして先ほど申し上げました通りこの、 |
| 0:24:45 | 全体で見ますと、観測記録と、モデルがよく整合しているということでございますので、大深度観測点付近のですね標高-1000メートル付近ではモデルの方がやや大きめになっているということが考えられますけれども。 |
| 0:25:01 | 全体としては、観測記録とよく精度するモデルになっているというふうに考えてございます。 |
| 0:25:09 | 続きまして五つ目のコメントでございまして、地下構造モデルの妥当性、引き続きですね、常盤の知見の確認整理をしまして、設定したモデルとの比較検討を示すこと。特に深部の地下構造モデルに関して、 |
| 0:25:25 | 参考となる知見を確認して説明性を向上させるということでございまして、59ページをお願いいたします。 |
| 0:25:37 | で、こちらに検証に用いました既往の知見とそれから許可における原稿を整理してございます。まず速度構造に関してでございますけれども、こちらは既許可におきまして微動アレイ観測、それから敷地内で実施している水平アレイ地震観測、これらに基づいて地下構造モデルの検討を行ってございますので、 |

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 0:25:56 | それらとの比較を行いまして整合性を確認することによって妥当性の検証を行ってございます。その詳細につきましては、60 ページに微動アレイ観測の位相速度との比較。 |
| 0:26:08 | それから、61 ページには、井戸が 0 観測及び水平アレイ観測に基づく速度構造との比較をお示ししてございます。 |
| 0:26:17 | いずれも深部まで含めてですね。 |
| 0:26:20 | この既往の調査検討と整合していることを確認してございます。 |
| 0:26:24 | また 59 ページの御説明続けますけれども、②の減衰構造の方につきましては、まずは速度構造と同様に 9 から検討いたしました水平アレイ観測点の地下構造モデルの Q 値との比較を行ってございます。 |
| 0:26:40 | その他に既往の知見を参照いたしまして、今回のモデルにおきます地震基盤以浅の Q 値、それから地震基盤の Q 値ということで分けまして、それぞれ時、地盤特性の Q 値と、それから伝播経路特性の教育との比較を行いまして、 |
| 0:26:56 | 整合性を確認することによって妥当性を検証してございます。 |
| 0:27:00 | 地盤特性部分の Q 値につきましては、 |
| 0:27:03 | 鉛直アレイ観測に基づく岩盤の Q 値に関する知見ということで、竹村ほか及び里ほかを参照いたしました。詳細は 62 ページをご覧くださいまして、 |
| 0:27:15 | 左側が月岡で検討いたしました P R A 報告時点の Q 値との比較、それから右側は竹村ほかにあります、岩盤の Q 値の比較と、 |
| 0:27:25 | ということございまして、いずれも今回のモデルの設定が基本の知見と同等であることを確認してございます。 |
| 0:27:31 | それから 63 ページは、佐藤ほかによります、こちらの岩盤のこちらの減衰定数で整理をされておりますけれども、こちらとも同等であることを確認してございます。 |
| 0:27:42 | すいません再度、59 ページ戻っていただきましてさらに深部の知見ということで、 |
| 0:27:48 | 伝播経路特性の Q 値に関する知見を参照いたしまして、 |
| 0:27:52 | 全国の知見等とそれから敷地周辺における知見を参照してございます。その際にモデルの地震基盤 Q 値については伝播経路特性の Q 値と比較をしまして同等であることを確認していると。 |

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 0:28:05 | 一方それ以前の、モデルの書類線については伝播のQ値はそれは直接比較できませんけれども、より深く速度を競うほどフューチャー大きくなる傾向にございますので、 |
| 0:28:16 | 店舗のQ値の下限と同等もしくはそれよりやや小さい傾向にあるかということを確認してございます。 |
| 0:28:23 | 詳細 64 ページ以降になりますけれども、64 ページには甘い結果による全国の知見、それから、65 ページと 66 ページには、敷地周辺における知見ということでお示しをしておりますが、 |
| 0:28:38 | いずれの知見との比較におきましてもですね、このモデルの地震基盤のQ値は、現行のQ値と整合していること、それからモデルの地震基盤より浅い部分のQ値は、 |
| 0:28:49 | 現場のQ値の下限に対応しているということが確認できてございます。 |
| 0:28:53 | こういった確認を通しまして今日の知見との比較によりましても、シール部まで含めまして今回の大深度モデルの妥当性を検証いたしているということでございます。 |
| 0:29:07 | 続いて六つ目のコメントでございます。地下構造モデルの妥当性、こちらでもですが、湊側の統計的グリーン関数法によるシミュレーション結果については、中越地震と中越沖地震で観測記録との対照関係が異なる。 |
| 0:29:22 | こちらに対する分析を示すことということでございまして、73 ページをお願いいたします。 |
| 0:29:32 | こちらで前回会合でいただきましたご指摘を踏まえまして、湊側のSGFによるシミュレーション結果と観測記録の大小関係を改めて整理をしております。 |
| 0:29:43 | まず、SGFモデルによる結果につきましては、中越地震では観測記録よりも大きめの傾向、中越沖地震では観測局と抑制をしていたと、いうことございまして、これを今回の大深度モデルを用いた場合には、 |
| 0:29:59 | 全体にSGFモデルの方がガイシンドウモデルよりも結果が大きいのということでございましたので、その結果、 |
| 0:30:08 | 観測記録の対応という観点では、大深度モデルでは、中越沖地震、中越地震では観測記録、それでもまだやや大きめな家。 |
| 0:30:19 | いうことございましたが、中越沖地震では観測記録よりやや小さめの結果となっているということでございます。 |
| 0:30:26 | これを踏まえて2点分析を行ってございまして、 |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 0:30:30 | まず1点目ですが、買収のモデルによる中越沖の結果は、観測記録よりやや小さめということで過小なのではないかというご指摘もございましたので、これについての確認を行いました。 |
| 0:30:42 | 具体的には大地震のモデルと、SGFモデルの考え方。 |
| 0:30:47 | 件数の設定の考え方の違いということでございまして、 |
| 0:30:51 | 振動モデルではその観測記録に基づく減衰の値を採用した一方で、SGFモデルでは地盤の影響も含むFマップの設定を踏まえて、全挿一律の減衰の値を採用していると。 |
| 0:31:02 | ということで、このためにその大深度モデルでは、シミュレーションにおいて不満、その設定をそのまま用いますと、地盤の減衰の影響が二重に考慮されるような形。 |
| 0:31:13 | ということになりまして、その結果は観測記録よりもやや小さめの傾向が見られたものというふうに考えられるということでございます。これを踏まえて、 |
| 0:31:22 | 仮にFMACC Sを考慮しない場合のSGFの結果を、観測記録と比較しまして、衛藤大臣のモデルがもうその地下構造モデルとして仮称ではないということの確認を行ってございます。 |
| 0:31:35 | それからもう1点ですね観測記録との大小関係が異なるのではないかとということでございまして、もともと中越地震のSGFによる結果の販促よりも大きめの傾向ということがございましたので、 |
| 0:31:47 | どこでそのような差が出ているのかということでそれが、その地下構造モデルの妥当性に影響するものであるのかどうかということで確認を行ってございます。 |
| 0:31:57 | 衛藤結果は74ページ以降お示ししてございましてまず、中越沖地震につきましては、 |
| 0:32:04 | 仮にうまくそこを利用しない場合の結果をこれまでお示ししてきました結果に加える形で、点線でお示ししております田井進藤モデルの結果が赤の点線ということでございますが、 |
| 0:32:16 | こちらをご覧くださいますと特に観測記録より小さめの傾向が見られておりましたUD方向こちらも含めまして、観測記録に対して過小になるものではないということは確認できてございます。 |
| 0:32:28 | 従いまして、 |
| 0:32:30 | 地下構造モデルのその増幅特性として大深度モデルが過小評価になるようなものではないと。 |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 0:32:36 | いうふうに考えられると、これは確認ができているということでございます。 |
| 0:32:41 | 同様に 75 ページには中越地震につきまして、こちらの仮にうまく考慮しない場合の結果を示してございます。こちらの結果は同様でございます。観測記録に対して過小になるものではないということを確認してございます。 |
| 0:32:56 | それから F 基礎考慮しない場合においてはですねいずれの地震によるシミュレーション結果も、短周期側では観測記録より大きな傾向にございますので、中越地震と中越沖地震で、観測記録との大小関係が異なることもないと。 |
| 0:33:11 | いうことも確認をしてございます。その上でということで次 76 ページでございますけれども。 |
| 0:33:18 | 中越沖、中越地震で、S G F あんま観測記録より大きめの結果となることの分析を行ってございます。 |
| 0:33:27 | S G F の結果とその観測記録との差異を詳細に確認いたしますと、S G F の結果は S G F モデルと大深度モデルどちらにおいてもですね。 |
| 0:33:37 | 紫の三角でお示しをしております。0.1 秒から 0.3 行程度の周期体におきまして、観測記録ですとか E G F の結果と、やや乖離がありまして大きくなっている。 |
| 0:33:50 | いう状況でございます。 |
| 0:33:53 | このことがですねこの中北井よりも短周期側の応答スペクトルのレベルを持ち上げるような形。 |
| 0:34:00 | そういった影響を与えているということございまして、それによりまして全体的に応答スペクトルが観測記録よりも大きめの傾向となっているものというふうに考えてございます。 |
| 0:34:13 | 従いまして |
| 0:34:15 | 中越地震のシミュレーションにおいては一部の周期対レース G F の結果が観測記録よりもやや過大評価となっていると、いうことではございますけれども、特定の領域からのその増幅等の影響により、中越地震と中越沖地震で、その S G F の結果と観測。 |
| 0:34:31 | 記録の大小関係に間違いが生じているわけではないと。 |
| 0:34:35 | いうことは確認できてございますので、以上によりまして地下構造モデルの妥当性確認の観点におきましては、中越地震は S G F の結果が観測記録よりも大きめの傾向になっていると。 |
| 0:34:49 | いうことの影響はないものというふうに考えてございます。 |

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 0:34:55 | 構造モデルの妥当性確認に関するコメントへの個別には以上でございまして、 |
| 0:35:00 | 最後に七つ目のコメントでございまして、はぎとり地盤モデルについてですね、介護基盤表面のえさ速度が保守的に決定されることを確認するために、最新のモデルの接続を用いた場合はぎとりファアを算定して示すことと。 |
| 0:35:16 | ということでございまして |
| 0:35:19 | まず 116 ページをご覧くださいと思います。 |
| 0:35:23 | 116 ページで前回会合で、そのはぎとり地盤モデルに関しましては今回設定した解放基盤表面から地震基盤までの地下構造モデル、これには影響を受けませんので、 |
| 0:35:35 | 超過のはぎとり版の影響はございませんということでご説明をさせていただいてございます。その中で、解放基盤におけるそのS波速度像としては、最新のモデルよりも保守的な設定となつてございますということをご説明させていただいておりますのでこの部分について実際にその、 |
| 0:35:51 | えさ速度大臣のモデルに置き換えまして剥ぎ取りは比較するという検討を行っているものでございます。 |
| 0:35:58 | 結果が 117 ページでございまして、 |
| 0:36:02 | ご検討は 2 ケース確認を行つてございます。 |
| 0:36:05 | 一つ目としましては逆解析で同定の対象標高 - 250 メートル以深といたしましたので、それ以深を大臣のモデルの S 波速度に置き換えたケース。 |
| 0:36:17 | それからもう一つですね二つ目としまして、 |
| 0:36:20 | 大深度モデルはその解放基盤から地震基盤までの地下構造モデルとして設定しているということでそのモデルの連続性ということを踏まえまして、解放基盤の標高 - 284 メートルより深い部分を耐震のモデルの S 波速度に置き換えたケースということで 2 ケース検討してございます。 |
| 0:36:39 | その結果、下にお示ししております通りでございまして、 |
| 0:36:43 | 室村本のはぎとり地盤モデルで赤が今回確認を行いました検討ケースということでございまして、いずれのケースもそのはぎとり版の応答スペクトルはほぼ変わりませんで、 |
| 0:36:53 | 江本の黒野はぎとり地盤モデルの方が、最新のモデルの差速度に置き換えた場合もわずかに上回るということが確認できてございますので、はぎとりは評価としてはもち的な評価になっていると。 |

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 0:37:06 | ことを確認しているというものでございます。 |
| 0:37:09 | ご説明の方は以上になります。 |
| 0:37:17 | はい規制庁タニですね説明ありがとうございました。 |
| 0:37:20 | それではですねちょっと確認に入っていきたいと思うんですけど、最初にですね。 |
| 0:37:26 | 前回会合ってというのが12月3日にあって、 |
| 0:37:30 | その時に、1ヶ月程度でまとめるウーことができますかということで1ヶ月間をお正月明けにすぐこういった資料出てきて、 |
| 0:37:40 | 1ヶ月程度で出てきたわけなんですけど、この検討内容ってというのは、1ヶ月しか時間なかったかもしれないけどもやり残したことはなくてコメントに関しては、もっとこういったことをやりたかったけど、やれなかったとかそういうことはない。ありませんか。 |
| 0:37:56 | 十分やりたいことは、検討したいことは検討が含まれているというふうに考えていいですか。 |
| 0:38:03 | はい東京電力杉本ですもちろん時間の制約があるということは理解した上で対応しておりますけれども、この時間の中でやはり、 |
| 0:38:13 | やれることはやり尽くしたというふうに考えてございます。 |
| 0:38:18 | はい。確認できました。 |
| 0:38:21 | あとは、えっとですね。 |
| 0:38:25 | 資料の内容を今説明していただいたことってというのは、基本的にはコメント回答っていう資料に書かれている。 |
| 0:38:33 | ところを中心に、説明いただいたんですけども、これってあれですかねと、当然1ページのコメント内容だとか目次とかは変わってるのはわかるんですけど。 |
| 0:38:45 | 今これコメント回答って書いてるページ以外は特に変えてるところはないんですか。 |
| 0:38:54 | 東京電力杉本です。 |
| 0:38:57 | 帰っている部分については一部修正という形で右上に書かせていただいております。基本は再掲でございますけれども、 |
| 0:39:08 | 例えばですね、例えばというか78ページをご覧いただいてここはこの地下構造モデルの設定の検討を一通りまとめたページでございましてここ一部修正としてますけど、その真ん中の右側の箱書きのところでも今回その深部の検討については検討追加しても、 |
| 0:39:28 | そこはまとめとして |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 0:39:32 | 項目を追記しておりますけれどもそういったところが、認知の数ページではあるかと思えますけど、中身について何か変更したということは他ございません。 |
| 0:39:43 | はい規制庁タニです。はい確認できました。だからあれですよ結果とか考え方っていうのは基本的に変わってないんだけど、説明性の向上というか前回、 |
| 0:39:54 | 会合で指摘した内容についてきちんと説明を追加したといった資料かと思いました。はい。ありがとうございます。 |
| 0:40:02 | それで個別の今ほど説明あった内容について、個別にちょっともう確認していきたいと思うんですけど。 |
| 0:40:12 | 私の方ですね。 |
| 0:40:16 | 38 ページですか。 |
| 0:40:21 | この検討の内容なんですけれども。 |
| 0:40:24 | これ、基本的には荒浜側、荒浜大湊側についての検討だというふうに理解してるんですけど、これってあれですかねこの 36 ページの、 |
| 0:40:37 | 36 ページで、到来方向別で、ちょっとレシーバ関数とかの形がちょっと違う傾向がある例えば B とか C の領域は少し違うような領域なんですよってということについて、 |
| 0:40:50 | 説明されてるってということだと思うんですけど。 |
| 0:40:53 | これ、具体的に言うと、例えばこの B C とかいう領域は、 |
| 0:40:59 | 何ていうんですかね、この 38 ページで言うと、 |
| 0:41:03 | マイナス 200 メーターのケースに非常に近いんだとか、そういう説明なんですがこの 36 ページと 38 ページの、ちょっと具体的な対応っていうのはどう考えてるのかなっていうのを、 |
| 0:41:15 | 確認させて欲しくて聞いてます。 |
| 0:41:19 | はい、東京電力杉本でございます。 |
| 0:41:23 | 37 ページに二次元断面ございまして、ちょっと字小さいですけども、断面の上に置き書いてまして、この断面の左側が北西側、 |
| 0:41:36 | 右側が南東側という合意になります。ここでその高低差があると申し上げましたけれども、北西側ですね敷地の北西側から来る場合にはこの、 |
| 0:41:50 | 境界面の深さが浅くなると。 |
| 0:41:53 | それから、ちょうどこの、 |
| 0:41:56 | この一番深いところやや海側といいますか、南側から来る場合にはここが深くなると、いう傾向とは対応すると思ってまして。 |

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 0:42:06 | 38 ページでいきますと、標高-1500メートルのペースというのが、傾向としては領域BCの方に対応してくるだろうと。 |
| 0:42:18 | 今、想定しているこの一番上の大臣のモデルと言っているのは、領域の間合いの地震を使って増強しているのでこちらから来る地震。 |
| 0:42:29 | それから、標高-20メートルのケースというのが |
| 0:42:35 | 大きな傾向で見ますとその領域、 |
| 0:42:38 | 形ですとかJAの方向から来る波と対応するんだろうというふうに分析をさせていただきます。 |
| 0:42:51 | 規制庁谷です。 |
| 0:42:53 | ちょっと繰り返しになる、BCが領域BCが大体 |
| 0:42:59 | 38 ページと 1500 メーターの係数ですね。 |
| 0:43:04 | はい。 |
| 0:43:05 | で、 |
| 0:43:06 | はい。維持、経理、KJ2000、 |
| 0:43:13 | はい。方向というか断面との対応としてはそういった形になるだろうと。 |
| 0:43:18 | 見てまして。で、 |
| 0:43:20 | 特にその特徴的な1秒付近のレシーバー関数のピークという傾向で見ますと、1500メートルの方は前に出てきて0.6秒に近づくような傾向があると、それからこれが深くなった場合には、1秒よりも長いところにこのピークが出てくるような傾向があるということで定性的にはそこが対応しているんだろうというふうに分析をさせていただきます。 |
| 0:43:44 | はい。 |
| 0:43:46 | 確認、ちょっと私これ、2000がDCなのかなとかちょっと勝手に思ったところもあって、 |
| 0:43:52 | あれですねその辺の対応、もうそういうそういう考えであったら、ちょっともうちょっと詳しく説明してもらった方が、私ら理解進むかなと思ってるのと、 |
| 0:44:05 | あと |
| 0:44:07 | 何て言うんですかね、これを湊側の話じゃないですか。これ荒浜側でも、当然その到来方向で、 |
| 0:44:17 | さっきの何、何なんですか。上部寺泊層だとかそういった深さって変わるのかなっていうふうに思ったんですけどそれは変わらないんです。今、 |

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 0:44:30 | 大湊川到来方向にちょっとレシーバー関数の特徴とかが違いがあって、それは、 |
| 0:44:38 | 地質構造によるものだと言ってますけどこれって、 |
| 0:44:42 | 荒浜側到来方向別にあんまり変わらないよっていう話なんですけど。 |
| 0:44:47 | 荒浜側についてはこういったことは考えない。 |
| 0:44:50 | 考えなくていいというかその地質構造として、 |
| 0:44:54 | この、何て言うんすかね標高が違うような地質構造に当たらないってことなんですか。 |
| 0:45:01 | 確認させてください。はい。はい。東京電力杉本でございます 45 ページをご覧くださいまして、こちらに二次元断面荒浜と湊並べてお示しをさせていただきます。 |
| 0:45:14 | 今ほどご説明した湊側はこの二次元断面で見させていただいて青野さんか木下筒井に聞いてますけどこれが直下付近ということで、ここで左右モデルで見ますと左右で少し高低差があるだろうと。 |
| 0:45:30 | いうふうに考えて今回その到来方向での違いもありましたのでこういう分析を行ったと。 |
| 0:45:35 | 一方上の荒浜側を見ていただきますと、ここで |
| 0:45:39 | 特にその上今回検討した上部寺泊層と下部寺泊層の境界面でこの段差がつくような高低差があるわけではないと。 |
| 0:45:48 | いうことは確認してますのでそういうところで荒浜側と湊側で影響が違うんだろうというふうに、今回分析をさせていただきます。 |
| 0:45:58 | 施設長谷です。これあれですね、図、地質構造に関しての説明も、今の説明と整合的だということで、 |
| 0:46:08 | そう考えてるっていうのは確認できました。 |
| 0:46:13 | これもあれですね補左がボックス、45 ページ左が北西で、 |
| 0:46:20 | 右側 5。 |
| 0:46:22 | 何となってると思う。はい。 |
| 0:46:32 | はい。 |
| 0:46:34 | ちょっとこの辺資料、もう少し確認してみようようにします。それで、 |
| 0:46:39 | 結局、論旨としては 36 ページは、湊川方向別にちょっとレシーバー関数変わる。 |
| 0:46:50 | ようなところはあるんだけど、 |
| 0:46:53 | 結局、 |
| 0:46:56 | この、この、 |

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 0:46:59 | 何て言うんすかね。この、 |
| 0:47:01 | 境界面の深さが変わったとしても、 |
| 0:47:05 | 伝達関数は変わらないから、 |
| 0:47:10 | 特にBC、 |
| 0:47:13 | 方向の、 |
| 0:47:15 | 何て言うんすかね。ここの同定とかを、ちょっと個別にして景気を見るとかそういう必要はないだろうということで、 |
| 0:47:22 | 伝達関数で説明されてるってことなんですかね。 |
| 0:47:29 | 東京電福本ですご理解の通りでございましてそういう影響があっというレシーバー関数に間違いが出てきたとしても、地盤のその増幅特性としてはこれは到来方向で変わらないだろうというのは今回のプラスと。 |
| 0:47:43 | それから許可での観測記録の分析とこれと合わせてそういう結論を導けるというふうに考えてございます。 |
| 0:47:51 | そこはそこは整合しているということを今回のパラスターからも確認ができたということでございます。 |
| 0:48:07 | 規制庁タニですけどそれってあれなんですかね。 |
| 0:48:14 | 一般的にもう、こういった何ていうんですか、こういった境界のところが変わっても、 |
| 0:48:22 | あんまり伝達関数は変わらない。 |
| 0:48:25 | というのが小中。 |
| 0:48:27 | 普通は何かその辺で伝達関数が変わってきそうな気もするんですけども。 |
| 0:48:31 | ここは何ていうんですかね、こういう、 |
| 0:48:35 | うち、地盤条件だから変わらなかったとか何かそういった考察とかはあるんですか。 |
| 0:48:49 | すいませんよく伝わらなかったかも。私の言い方悪かったかもしれないですけど。 |
| 0:48:54 | これ深度変えてもあまり伝達関数変わりませんっていうのは、何ていうんですかね。ここ多分ここの地質構造の、 |
| 0:49:03 | こういう条件だったら変わらないっていう話をされてるのかなと思うんですけど。 |
| 0:49:07 | 何か。 |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 0:49:09 | こうこうこういうところが影響してるから、変わらないんだとかいうのお考えがあったら、ちょっと聞かせてもらったと思うんですけど。 |
| 0:49:18 | はい。東京電力杉本です。そのモデルの距離として、結構ありますので鳥居に与える今回 50 メートルで変えてバラストを行いましたけれどもそういう意味でありその層厚がここで変わったことの影響が増幅率に対しての基。 |
| 0:49:38 | でしょ。影響度合いとして、感度として大きくないだろうと。 |
| 0:49:42 | この前来、 |
| 0:49:44 | 当然パラメータとしては装置のほかに速度ですとか減衰とかあるわけですので、そういった部分で、 |
| 0:49:53 | この感度がそんなに、 |
| 0:49:55 | 増幅率に対する感度はあまりないだろうとで、一方レシーバー関数で見るときは大分大きく変わってくるということも確認をしたというふうに分析をしておりますけれども |
| 0:50:07 | この長さに与える部分の何でしょう今回の変化量に対しての影響度合いがそう、そこまで大きくなかったんだというふうには考えております。 |
| 0:50:20 | はい。お考えは、確認できました。もう少し私も資料をちょっと見さしていただこうと思ってます。 |
| 0:50:40 | 規制庁丹治です。ちょっとまた、ここばかり言ってもあれなので次の確認ですけれども。 |
| 0:50:50 | 60、 |
| 0:50:52 | ページ、 |
| 0:50:57 | これもちょっと教えてくださいってことの 60 ページで、 |
| 0:51:05 | 来新藤モデルと微動アレイで、概ね整合しているってことを説明されてて、 |
| 0:51:13 | である浜蒲生湊側も、確かにこの低周波側の位相ってというのは、 |
| 0:51:19 | 合ってるって説明かと思うんですけど、これってここでの説明では、 |
| 0:51:26 | 今週は側の話とかは、されなくていいのか、どうしてこれは低周波側のっていう。 |
| 0:51:34 | くくりにしてるのかっていうのをちょっと考えを教えてください。 |
| 0:51:41 | 東京電力の藤岡です。 |
| 0:51:43 | 伊佐は先ほどの |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 0:51:46 | と影響する範囲につきましては右下の図のほうに、解説の方をつけさせていただいております。で、位相速度の停止発生側につきましては、 |
| 0:52:00 | 地下深部の長波長の影響、うん。 |
| 0:52:03 | 組んでいるものだと。 |
| 0:52:05 | 一般の |
| 0:52:07 | 班長の講師は側の方につきましては、地下の浅い部分の影響を含んでいるもの。 |
| 0:52:13 | ということでございますので、今回の地下構造モデルにつきましてはより深部の、 |
| 0:52:20 | ちょっと構造を確認すると、ということで周波数側が整合しているということを確認してございます。 |
| 0:52:29 | ただし |
| 0:52:30 | それよりも更新版につきましてはより浅い解放基盤より浅い部分の影響ですとかそういうものを、 |
| 0:52:38 | 含んでいるということもありますので、今回は定修発生側が、ちゃんとあっていって新聞まで整合していると、いうことを確認したということでございます。 |
| 0:52:53 | 規制庁谷ですけど、これあれなんですかね理想的には例えば、 |
| 0:52:58 | 高周波数側も合ってくるのが理想なんですけど、ちょっと、ちょっと聞きたいことよくわかんないかもしれないですけど。 |
| 0:53:07 | 僕はちょっと思ったのが、荒浜側あって、何か高周波側。 |
| 0:53:14 | 図1が大湊側って高周波側も見てみるとなんか北側0って言って緑の点と |
| 0:53:22 | 沿ってるような感じがするんですけど、荒浜側って何か |
| 0:53:29 | どっちか、もうこれアラーム側についてもなんか大井小南側でっていう地区なんだと思うんですけど。 |
| 0:53:36 | なんだけど何か緑の方がちょっと2にてるようなグラフになってるんですけど、その辺はどう。 |
| 0:53:44 | 高周波は特に考えなくても、いいんだということなんですかね。 |
| 0:53:52 | 東京電力の藤岡でございます。ご指摘の通りですね北川0と南0では、工事、レベルが違う。 |
| 0:54:02 | と言います。相対的な関係につきましては、荒浜側の理論値と湊側の理論値はもうそのような関係は維持し、 |
| 0:54:13 | 表現できているものというふうには考えています。ただ |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 0:54:18 | 微動アレイにつきましてはあるの平均的な、 |
| 0:54:24 | 地下構造等を示しているものだというふうに考えておりますので、 |
| 0:54:30 | その中のピンポイントの |
| 0:54:33 | 鉛直アレイの1次元のモデルと、平均的なアレイの記録の位相速度についてはこのぐらいの違いが出るものだと認識しております。 |
| 0:54:50 | はい規制庁タニです。はい、えっとお考えの事実関係できました。 |
| 0:54:55 | どんどん、次の確認に行きたいと思えますけど。 |
| 0:54:59 | 私がよく62ページ以降ですね。 |
| 0:55:05 | 62ページは |
| 0:55:09 | 竹村ほかの知見と比べて赤い線ちゅうのは、 |
| 0:55:14 | 回ってる同等であるっていうのを確認すると、63ページもそうですね佐藤ほかに対して合ってますよというようなことを説明してて、 |
| 0:55:25 | そこから64ページ以降がですねこれが何かちょっとよくわからなくて、今、説明、先ほど説明の中で、 |
| 0:55:35 | なんて言ってましたっけ。 |
| 0:55:37 | 伝播経路のQ値とは、大深度モデルの浅いところ。 |
| 0:55:45 | ここは同等同等か低くて当たり前なんだっていうような、ちょっと説明に聞こえたんですけども。 |
| 0:55:55 | これは、 |
| 0:55:59 | ちょっとだから伝播経路のQ値っていうのはこれ、この63ページまでの、 |
| 0:56:06 | Q値とは持違ってっていうようなのがですね何か資料を見てても、いまいちよくわからなかったんですけどもうちょっと何か説明してもらっていいですか。 |
| 0:56:21 | 64ページのこの位置付け、この特にグラフの右側の方をやや下回る傾向にあるっていうのが、問題ないのかっていうのももう少し詳しく説明してもらっていいですか。 |
| 0:56:39 | 東京大学の藤岡です。藤安斎喜多につきましては、59ページの検討文章の方で記載させていただいておりますけども。 |
| 0:56:54 | 受信機盤線のQ値。 |
| 0:56:59 | 旧値としいたしましては、より深く速度の大きい層歩道旧値が大きくなるという一般的な傾向があると、いうことを踏まえまして、 |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 0:57:10 | 電波系のQ値に比べましてそれより浅い別途地震基盤以浅のQ値は小さくなるだろうという、一般的な傾向を踏まえまして今回のモデルに対しても、 |
| 0:57:23 | そのような関係を維持できているかということを確認いたしまして、その妥当性を確認したという位置付けになります。 |
| 0:57:47 | 規制庁佐口ですけども。 |
| 0:57:55 | 規制庁サグチですけども。 |
| 0:57:56 | 聞こえます。 |
| 0:58:00 | はい。聞こえております。 |
| 0:58:03 | ちょっとですね、私の方も確認というか今の、 |
| 0:58:09 | 御説明って言いたいことはわかるんですけど。 |
| 0:58:12 | 64ページとかそのあとの66ページとか、実はこれ、今日の杉本さんのご説明を聞いていて、私もちょっと納得納得というのか、した部分はあるんですけど、これって結局、 |
| 0:58:25 | その上限下限っていう、多分キーワードが出たと思うんですけど、そういう関係の話であって、何か一般的な傾向って言われるのもそうなのかもしれないですけど要は、いわゆる岩盤、 |
| 0:58:38 | って言われるような、地震基盤とか特に深いところのQ値と比べて、今大新藤モデルっていうのはそういうところの、この地震基盤以浅というのは、そのQ値を、 |
| 0:58:50 | の下限と今、 |
| 0:58:54 | 何ていうんすかね。 |
| 0:58:57 | よく合っていますっていうか、高元より下回っていると、何か今、この、 |
| 0:59:04 | この書き方だと、なんかすごく誤解があつていやなんかじゃ外れてんじゃないみたいなの、そういうふうに見えるんでそうじゃなくって、いわゆるその上限とか下限とかそういう、 |
| 0:59:16 | 話の一環としてこういうのがあって、それは確認できてますっていうような、多分そういう書き方なんじゃないとこれは、 |
| 0:59:23 | 誤解を与えるのかなと思ったんですけど、ちょっとそのあたりでどう、どのように、 |
| 0:59:29 | 考えていらっしゃいます。 |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 0:59:36 | 東京電力の豊岡です。大崎さんのご指摘の通りで、当間山谷様ある傾向にあることを確認ということで込めておりますけども、これがなぜいいのかということ等の説明が不足していると思いますので、 |
| 0:59:50 | その記載は改めさせていただきたいと思います。 |
| 0:59:59 | はい佐治です。ちょっとその記載の適正化なり補強なりはちょっとしていただきたいのと、あと、これってずっと 64 ページ以降とおんなじでいいんですよね例えば 66 ページも同じことなんですけど、ここで、 |
| 1:00:15 | 66 ページだとね、柏崎地域と違っていろいろあると思うんですけど、この D たってというのは、 |
| 1:00:25 | 要はその深いところだけなのかそれとも、 |
| 1:00:28 | 浅いところなんかも含めて、 |
| 1:00:32 | たとしてあるのか、っていうのがちょっとわからなかったんです。データの。 |
| 1:00:39 | もともとのデータの何だっけ資質というんですかね。 |
| 1:00:43 | なので、 |
| 1:00:44 | ここで求められているデータは、深いところのいわゆるその地震基盤に対応するような、 |
| 1:00:52 | どこだけを、 |
| 1:00:54 | 扱っているのかそれとも、 |
| 1:00:57 | 何か浅いところも含めて、扱っているのか、っていうですねこの馬場ほか 2010 っていうのは、 |
| 1:01:06 | ちょっとそこだけ教えてください。 |
| 1:01:10 | 東京電力藤岡です。 |
| 1:01:12 | 上の箱書きで解説を加えさせていただいてるんですけども、野田ほか 2000 税の検討につきましては、 |
| 1:01:22 | 二重スペクトル比の手法というものを採用していますので、これによって求まる Q 値につきましては地震基盤より深いところの、Q 値になるだろうという。 |
| 1:01:34 | いうふうに考えております。 |
| 1:01:43 | ご説明は以上です。はい。昨日わかりましたなので、だからそういう、ちょっと細かいところかもしれないんですけど、そういうところはきちんと書いていただいていますね。 |

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 1:01:53 | データ、もともとのデータというのが、この比べてるものがどういうものなのかとか、そういうのはちゃんともう少しわかるように、化していただきたいと思います。 |
| 1:02:07 | 東京電力杉本でございますすみませんサグチご指摘どうもありがとうございますご指摘ご最もでございますのでしっかり我々として伝えたいことがちゃんと伝わるように記載適正化させていただきたいと思います失礼いたしました。 |
| 1:02:31 | 規制庁たんですが、続いてですね。 |
| 1:02:35 | ちょっと73ページからの検討が、うん。 |
| 1:02:41 | これもちょっと私よくわからなかったところなんですけど、結果的には、74ページだとかでは、 |
| 1:02:49 | F M A C C Sを考慮しないものを、 |
| 1:02:53 | ここでグラフ、出してみ、 |
| 1:02:58 | そこから何ていうんすかね。 |
| 1:03:00 | 大振動モデルが地下構造モデルとして、過小評価となるものではないと考えられるっていう話をしてるんですけども。 |
| 1:03:11 | 何ていうんすかね。 |
| 1:03:15 | 不明M A C C Sを使うと、地盤の減衰の影響が二重に考慮される。 |
| 1:03:22 | だから、外したんだっていうようなことで説明されてるんですけど。 |
| 1:03:28 | そこが何かよくわからなくてF M A C C S |
| 1:03:33 | もう、 |
| 1:03:34 | ここの評価としては、セットで評価していくようなもんじゃないのかわかっていうふうに思ってるんですけども、このF M A C C Sの影響を考慮しないで比較する。 |
| 1:03:45 | っていう考えがちょっとよくわからなくて、もう少し丁寧にですね、どうしてこれを見て、 |
| 1:03:55 | 地下構造モデルとして過小評価じゃないんだって言われてるのか、もう少しちょっと説明してください。 |
| 1:04:03 | はい、東京電力杉本でございます失礼いたしました。まず考え方というか整理については前回の会合でもご説明した、94ページをちょっとご覧をいただいでですね。 |
| 1:04:17 | 今、前回の会合ではこれと逆でもその標準応答スペクトルの評価にも、使うときにS G Fモデルだと、うまくいかないんですというご説明をさせていただいておりますけれども。 |

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 1:04:31 | その右側でそのSGFによる地震基盤はというふうにありますけれども、ここで不MACCSですうまくその震源の影響なのか地盤の影響なのかという話もありますけれども、 |
| 1:04:43 | 両方含めてすでにこの地震基盤の時点で短周期成分にフィルターをかけたような波を扱っているということでございます。それが |
| 1:04:55 | FMACCS有井の評価であって今までご説明してきたSGFの評価であると。 |
| 1:05:01 | ということでございます。で、それで先ほどの74ページに戻っていただいて、 |
| 1:05:10 | ですのでそのパイプMACCSの設定があってそれに用いるのに適切なモデルとしてSGFモデルというのが我々もともとあって、それが村崎の評価であったと。 |
| 1:05:23 | なので、村崎の評価で比較していただくとそのFMACCSを考慮しない場合というのはこれから大きくなるんだけれども、LMACCSを考慮。 |
| 1:05:34 | 指定というかちゃんとそのセットでちゃんと評価した場合に、この村崎が観測とよく合うようなことをやっていたということでございます。今回はその、 |
| 1:05:45 | 村崎のモデルから下のモデルに今回モデルが違う検討で大地震のモデルということをやったときに、大地震のモデルは観測記録の現世をちゃんと |
| 1:05:57 | 説明できるといいますか、観測記録に基づく減衰の値を設定しているので、すでに地盤のその源泉はちゃんと入っているような状況のモデルになっていると。 |
| 1:06:08 | ということでこれとその紫の時の毎熊、 |
| 1:06:12 | といいますかな、うまく伝わってないのでそのままそれをそのまま使っているわけですが、 |
| 1:06:18 | そうするとそのNMACCSの中にはその地盤の影響とか震源の影響と両方入ってくるわけですが、そこで一番の影響も、 |
| 1:06:27 | さらにその赤のモデルでは、 |
| 1:06:30 | モデル上で、地盤の減衰の影響をちゃんと観測記録と合うように考慮してるってことでそうすると二重に考慮されるような形になって、観測要綱に対してやや過小評価なんじゃないかというご指摘に繋がっていると。 |
| 1:06:45 | ということでございまして、 |

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 1:06:48 | そのモデルの純粋な増幅特性を見ようと思ったときに、今FLACSでもフィルターがかかっているような形になっている。さらに地盤のその厳選を適切に考慮しているということになっているので、 |
| 1:07:01 | 仮にですけれども、うまくそこら外してみると、純粋にその地盤の増幅特性だけを見るような形になると、それが赤の点線のレベルでありまして、 |
| 1:07:14 | そうするとこれはさすがに観測記録よりももう大きくなっていくということでございますので、本来そのちゃんとしたSGFの評価とする場合にはここにちゃんとしたFMACSをかけなければいけないだろうと。 |
| 1:07:26 | いうことでございますけれどもまずはここではその次、地下構造モデルのその増幅特性の妥当性を確認するという観点ですのでそこはとっぴらって、まずは |
| 1:07:38 | 地下構造モデルの増幅特性として、過小評価ではないかどうかっていうことを、FLACSを外して観測記録と比較することによって確認をしたと。 |
| 1:07:48 | いう検討でございます。すみません |
| 1:07:52 | の辺ちょっとわかるように、資料追加したほうがいいかなというふうに思いますのでそれがちゃんと説明できるようにちょっと修正をしたいというふうには思います考え方としてはそういった、 |
| 1:08:07 | 等、ちょっとタニですけど、ちょっと続けて確認したいんですけど、今の説明をまたずれだとすみませんね。今の説明を聞くと、 |
| 1:08:20 | 大深度モデルには大深度モデルにあった。 |
| 1:08:24 | FMACSっていうのが本来ある。 |
| 1:08:28 | という話なんだけれども、そのFMACSって何が適正かわからんから、とりあえず外したのを、 |
| 1:08:37 | 入れましたと。で、もし合わせるんだったら、こっから何か適切なFマックスがサグチ探しに行くとかで、観測記録に合うような、 |
| 1:08:48 | 手法があるんじゃないのかとそんな検討なんですかね。 |
| 1:08:54 | 東京電力上本ですおっしゃる通りでございます手法としてはもうこの原生を正としてそのFMACSを何らかの合わせにいくのかもしくはその今までやってた通り観測記録に合う減衰ではなくて、全挿一律で何らかの元素のSGF。 |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 1:09:11 | モデルとして用いる上での点数に与え与えるのかその考え方はいろいろあると思いますけれども、SGFはちゃんと評価しようとしたら当然そういう手順を踏まなきゃいけないと。 |
| 1:09:23 | 今回はそこまで検討するものではないと思ひまして一番前の段階ということでございますけれども、今谷さんがおっしゃったような確認をしたということでございます。 |
| 1:09:35 | 規制庁谷です。 |
| 1:09:37 | えっとですね、そうそう、そして、いや、何か引っかかっている74ページで、従って大臣のモデルが地下構造モデルとしまして、過小評価となるものではないというのは、 |
| 1:09:50 | これは何かあんまり、今の説明と繋がって来てなくて、 |
| 1:09:58 | それがいえるんですか。 |
| 1:10:01 | ちょっとなんで、 |
| 1:10:04 | 今の説明からこの、 |
| 1:10:06 | 過小評価となるものではないと考えられるっていうことになってるのかっていうのももうちょっとかみ砕いて説明していただけたらと思うんですけど。 |
| 1:10:17 | 東京電力杉本です。すみませんそこがちょっとあれですが。衛藤。 |
| 1:10:24 | 例えば今74ページのUD方向で、もともとお示ししていたのはこの赤の実線ということで、これが黒の点線に対して |
| 1:10:35 | 下回っているように、な関係に特に短周期側ですね、についてはそういう関係があってこれはちょっと過小なんではないでしょうかというご指摘を前回からいただいていたものと、いうふうに考えていると。 |
| 1:10:49 | この集北井についてはすみません繰り返になってしまうて申し訳ないですが、地盤モデルとしてちゃんとその観測記録に合うような厳正を考えていると。 |
| 1:10:59 | 一方でSGFを行うにあたってはFMCCSという短周期側にかかるようなフィルターがかかっている、そこがどんどん二重にかかっているというふうに考えられるので、 |
| 1:11:10 | そのFMAXをまず外して、地盤の純粋な減衰だけを考慮した形でSGFの評価をやったのが、この赤の点線になると。 |
| 1:11:21 | ということでございます。赤の点線と黒の点線を比べていただきますとこれは赤の点線のほうが黒の点線よりも上回る結果にある。 |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 1:11:31 | いうところでございますので、その純粋な地盤の増幅と客のモデルの増幅特性だけを考慮すると、こういう関係になってくると。ですのでまあ、 |
| 1:11:42 | S G Fとして適切な評価をしようとするのであればそこに本来適切なMマックスを改めてかける必要があるんでしょうけれども、そこまでは今回はやっていないということでございます。 |
| 1:12:58 | そっか。 |
| 1:15:00 | 規制庁谷です。資料の方も少し確認をしてみたいと思いますし、今説明があったような内容っていうのはですね |
| 1:15:11 | 口頭で説明があった内容等ですね、資料2、考えがわかるようにだけはちょっとしていただきたいなと思いますけどいいですかね。 |
| 1:15:22 | やはり東京電力品とすみませんちょっとちゃんとお伝えできるように資料、 |
| 1:15:27 | 修正したいと思います失礼いたします。 |
| 1:15:35 | 規制庁丹です。あと何か次に行こうと思ったんですけどやっぱりこの時、73ページの地盤減数の影響が二重に考慮されているっていうのは何か。 |
| 1:15:47 | 本当にこれで表現として合ってるのかなっていうのがちょっと気にはなってます。 |
| 1:15:54 | 20っていう言葉ってちょっと、 |
| 1:15:58 | 本来F A Xはもう無視していいんだけど、 |
| 1:16:01 | 入ってるから20なんだっていうふうになんかとらえてしまってたんだらこの、何て言うんすかね次のページのf M A C C Sを全く考慮しないのが、御社としての何か性精緻というか、 |
| 1:16:14 | これが地震動評価の、檀なんだって言うてるようにもちょっと聞こえなくもなくって、私もちょっと誤解してる場所もあるんだと思うんですけど、その辺の説明っていうのはしっかりしていただけたらなと思います。 |
| 1:16:28 | はい、承知いたしましたすいません。ありがとうございます。 |
| 1:16:39 | 規制庁丹下です。続いて、ちょっとこれは私がよくわかってないところもあるんすけど76ページで、 |
| 1:16:49 | この矢印のところが短周期の、 |
| 1:16:53 | 矢印で紫色の矢印ですねここが応答スペクトルレベルの持ち上げる影響を与えているっていうのは、 |

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 1:17:02 | これはあれなんですけどこの観測記録を見たら、もう自明のことだと、有効なんか自身の、こういった解析の中で、常識的なことが書かれているってということなんですか。 |
| 1:17:16 | 当東京電力杉本です応答スペクトルですのでこういった形で大きい、このピークがありますとこれより短周期側がこれに引っ張り引っ張られるといいますかというような形で応答が出るということは一般的ではないかなというふうには思っています。 |
| 1:17:34 | その影響が本当かどうかというのちょっとスペクトルでいろいろ検討はしましてここでこのピークに対して例えばフィルターをかけてみるとこの周期側のレベルがどう変わるかみたいな検討は、 |
| 1:17:47 | やって確認はした上でこういったご説明をさせていただいているというところがございます。 |
| 1:17:55 | 規制庁、谷です。はい、わかりました。一般的な話でもあるけれども、それをさらに確認をされているということで、事実確認は、お考えの確認はしました。 |
| 1:18:16 | あと規制庁タニですけど、引き続き、ちょっと資料とし今回資料と、あんまり関係ない話なんすけど。 |
| 1:18:24 | あんまり関係ないというか資料に書かれてない話なんすけど、これって、今までの会合で、湊川施設の何かこういう周期との関係っていうのを示していただいていますよね。 |
| 1:18:36 | で、荒浜側っていうのは、何か長周期側にこういった施設がない、鉛直動の長周期側に施設がないっていうのは、言葉で書かれてたと思うんですけど。 |
| 1:18:49 | 具体的にその、 |
| 1:18:50 | 施設の固有周期の関係というのを湊側と同じように示したりっていうのは、これはできないんですっけ。 |
| 1:19:00 | 荒浜側についても、 |
| 1:19:04 | 当東京電力杉本です。できなくはないんですが皆お手元御説明としては荒浜側はS s3で完全包絡できているので |
| 1:19:19 | ただし補足で検討した時にある浜野その特異な属性を踏まえても大丈夫ですというときにそこが登場してくるというお話の流れではございました。 |
| 1:19:29 | 固有周期の性についてはもう皆川7号で当然工認までありましてそういう詳細なデータがあってここまで固有周期ということでお示しはしシアツですね。 |

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 1:19:41 | しっかりしたものをお示しできていると。 |
| 1:19:44 | 荒浜側に行きますと、 |
| 1:19:46 | これまでもいろんな検討やってきてますので確認という意味ではちゃんと、我々としてしっかりやった上でお話をしておりますけれどもそれを、言った湊と同じレベルの図でお示しするというのはちょっと、 |
| 1:19:59 | 難しいようにも思いますけれども必要だでしたら検討したいというふうに思いますけれども、どういうご趣旨でおっしゃられてるんです。 |
| 1:20:09 | 規制庁谷です。あれですね前置きが私ちょっと誤解を招くような言い方してましたね確かに補足で説明しているもし増幅を考慮したとしたらっていうところで使ってた言葉なんですけど。 |
| 1:20:20 | 何か我々の方としてはそういった説明をされてるっていうのは確認できましたってことでこの間会合で言ったんですけれども。 |
| 1:20:31 | ただ長周期側に、施設がないんだっていうことについては、特に書いてる言葉を信じてるとするか書いてる言葉の通りそうなんだろうなっていう。 |
| 1:20:44 | 思ってるだけで、何かこう説明があればいいのかなっていうふうに思っているところなんですけど。だから、きちりとしたことは書けないのかもしれないんですけど書ける範囲で。 |
| 1:20:57 | 何かこう工夫して書けないかなということで、今言ってます。 |
| 1:21:03 | 東京電力杉本さんのご出身承知いたしましたちょっとそこは確かに確認しただけで我々も一言で済ませてるところありますのでちょっとしっかりちょっと反映するように、修正させていただきたいと。 |
| 1:21:17 | はいタニですお願いします。 |
| 1:21:43 | 規制庁ナイトウですけども、今の話でねちょっと東京電力としての考え方をもう一度説明して欲しいんですけど。 |
| 1:21:51 | これ設置。 |
| 1:21:53 | 変更許可ベースって設置許可ベースなので基本設計ベースですよ。そうすると、基本設計ベースとして考えるのは基本設計ないし基本設計方針だから、 |
| 1:22:06 | こういう地震動を設定してこれに耐えられるように物を作りますっていう考え方。 |
| 1:22:12 | それがベースになっています。 |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
 発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 1:22:16 | 短周期については十分包絡できているのでそれで計算できますよねという話はわかるんだけど長周期側はどうするんですかとしたときに、じゃあ、 |
| 1:22:28 | 1%でカバーできているわけじゃなくって、違う長周期に着目したものについての方ではカバーできてるからいいんですという、 |
| 1:22:38 | 端的にそういう説明の仕方になっちゃってるんだけど。 |
| 1:22:47 | そうするとねその上で当間。 |
| 1:22:51 | 長周期側については今施設がないからいいですよと、そういう施設影響を受ける施設はないんですってのはさらにもう違反、違反とかもうワンステップつけているんだけど。 |
| 1:23:03 | 基本設計として見たときには、いやあるなし関係なく地震動として考えたときに、設定するべきものなのかしなくていいものなのかっていう考えていった時には、 |
| 1:23:16 | 東京電力としてはどういう考えなんですか。ないから、今そういう施設がないからいいんだって、そういう施設があれば当然作らなきゃいけないものだと考えてるんですか。 |
| 1:23:28 | そういう時そういう施設があれば、 |
| 1:23:31 | 基準地震動として入れなきゃいけない。 |
| 1:23:34 | 地震とは、 |
| 1:23:35 | どう思って、るんですかね。 |
| 1:23:40 | この仮定の話を持ってんだけど。 |
| 1:23:44 | 東京電力杉本でございますが、 |
| 1:23:48 | これもこういう収益との関係で基本、基本的にはといたしますか長周期側に対してはS sさんがあるのでそちらで、そちらの影響があるものについてはそちらで評価ができると。 |
| 1:24:01 | ということなので追加する必要はないというふうに思ってましてまさに今おっしゃられた通り、その上で、評価対象としてもないということを確認していると。 |
| 1:24:12 | いうことを説明させていただいているものでございますので、その何でしよう組み合わせの考え方といたしますか結局、長周期側の鉛直動。 |
| 1:24:23 | のみですね包絡しきれてないところがあるということでございますので、もしその聴衆鉛直の固有周期で地方周期のものがあり、 |
| 1:24:35 | かつ、その水平の固有周期がものすごく短周期側だと、ということになると、これはカバーしきれないということになるので、そういうものが |

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| | ある場合には追加しなきゃいけないだろうというふうに思ってますけれども。 |
| 1:24:49 | そうでなければ、今の崩落の関係で、評価としてちゃんとカバーできるというふうに考えておりますので、これは追加する必要はないというふうに判断をしております、 |
| 1:25:02 | 規制庁ナイトウですけども、いや、ただ、今言ったので、わかったんだけど、それから1%で包絡できていないから、S sさんなりS s1でね。 |
| 1:25:12 | S s1、1で長周期側の鉛直がカバーできていませんという状況で化を考えると、 |
| 1:25:19 | じゃあ、 |
| 1:25:20 | 鉛直長周期で鉛直が比較的効いてしかも短周期も効くような、そういう単独機器ではなくてね。 |
| 1:25:33 | 今混合っていうか、 |
| 1:25:38 | これ、 |
| 1:25:39 | あんまりやってないのかな、一体一体でおって堂々解析やるような形のものが、4割は割と出てきてるんだけどね、 |
| 1:25:48 | そういった手法は、今のところ取ることは、東京電力としては考えていないからってということなんですかね。 |
| 1:25:56 | 逆に言うと免震構造なりのものをね、作っ作るとして、その中に、ガスタービンなりを置きますと言った瞬間に、 |
| 1:26:07 | 割と短周期も効いてくるんじゃないのかなって気もしないではないんだけど。 |
| 1:26:16 | ただ年間、免震もその鉛直で長周期が効くってことはおそらく、免震でも、上下動になりますので、いろいろすいません仮定の話で議論になって申し訳ないですが、 |
| 1:26:30 | そんなんでしょうかね |
| 1:26:33 | 結局、 |
| 1:26:34 | どちらもカバーできないとなると鉛直の長周期と水平の丹国対書記っていう組み合わせになってきますので、そういった一般的に考えてそういった組み合わせの構造物はないというふうに考えていると。 |
| 1:26:48 | 基本的には水平の方がこういう周期長くなりますので、鉛直ウーで、その横どんな長周期のものがあるとすれば水平はさらに長周期になると思いますので、 |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 1:26:59 | そういうものに対してはもう、S3で問題なくカバーできるというふう に考えておりますので考え方の整理としてはそういったしております。 |
| 1:27:35 | 規制庁佐口ですけども、 |
| 1:27:38 | ちょっと細かいところも含めて少しだけ確認をいくつかさせていただきます。 |
| 1:27:44 | 最初の方にちょっとタニの方から確認があった。 |
| 1:27:50 | 36ページとか38ページの関係、これで。 |
| 1:27:57 | 36ページでBとかCとかってというのはちょっと他と比べて、傾向が違う ような、ピークが見られていると。 |
| 1:28:06 | 38ページで、さっきその対応関係みたいな話あったんですけど。 |
| 1:28:15 | 当然ながらあくまでもう38ページのレシーバー関数をいろいろ出すの は、これは理論的に出されているので、 |
| 1:28:24 | 定性的な傾向としてはこうなんですというところ。 |
| 1:28:28 | だと思うんですけど。 |
| 1:28:29 | その定性的なもの、伝達関数がほとんど変わらなくて影響がありません っていう、この伝達関数っていうのはある意味、定量的な話になるので、 |
| 1:28:40 | まずこれを一緒にして本当にいいのかっていうのと、36ページの、傾向 の違うBとかCとかって、 |
| 1:28:49 | 少なくとも、これが合うようなモデルは、フォワードとかでも何でもい いで、そうそういうのをやった上でさらに伝達関数で影響があるのか ないのかって示されてるんだったら、 |
| 1:29:03 | わからないでもないんですけど、何か今少なくとも定性的なものと定量的 なものをごっちゃに。 |
| 1:29:11 | しちゃってないですかねという、ちょっとそこ確認させてください。 |
| 1:29:19 | はい東京電力杉本です。ここが検討の時間的なというか最後の時に私も パッと思ったのは、佐口さんからのコメントをいただいてこの分析の ところは少し時間がかかるんじゃないかと思う。私申し上げたと思いま すけど。 |
| 1:29:36 | その時にパッと思ったのはこういう到来方向の違いがあるならばその方 向ごとに、 |
| 1:29:43 | 同定をやってみたらそういう影響検討できるかなということも思い、そ ういった発言をしたものでございましたが、そこだとやっぱりそのま あ、 |

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 1:29:52 | その検討のスケジュール的にもそこに追いつかないので、そこを、 |
| 1:29:59 | 何とか今回のスケジュールに乗せるためにもということを考えてこういった、ある意味わかりやすいパラメータスタディでありますけれどもそういう形で、 |
| 1:30:09 | 今回その境界深さを変えた場合の影響を見て、検討したと、いうことで、そこはご指摘の通り定性的な傾向ということであると思っておりますけれども。 |
| 1:30:20 | ただ分析としては到来方向でこういう高低差が出てきてそれに対応して、パラメータを変えた結果レシーバーにも本同じような違いが出てくると。 |
| 1:30:31 | いうことは把握できているので、その時の伝達がおくれ定量的になるのかもしれませんがけれどもそう変えたときにこれが、伝達関数にやはり感度が出てくるということであればそこは詳細に確認しなきゃいけないんだらうと。 |
| 1:30:45 | いうふうに思いますが、こちらご覧いただきましてわかる通りもほぼ変わらないということですので、 |
| 1:30:53 | そういう意味ではこういった |
| 1:30:58 | 当然償却の影響があるので何らかその代表するモデルというのを作らなきゃいけないと、代表性を確認しなきゃいけないという中で、 |
| 1:31:09 | もうこういったレシーバー関数のファンドに対して伝達関数の関係はほとんどないということは今回の検討でこれは確認ができているというふうに思いますので、そういった点を踏まえて、今回のモデルが敷地を代表するとみなすことができるというモデルだというふうに考えてご説明をさせていただいたということですので、 |
| 1:31:32 | はい規制庁佐口です。事実上と、それからもうお考えっていうのは一応わかりましたので、ちょっと。 |
| 1:31:41 | 気になった。 |
| 1:31:42 | てるのが記載のところで40ページのところで、スタッキングの話。 |
| 1:31:48 | 真ん中の箱書きのところの1ポツ目の最後の方なんですけど。 |
| 1:31:52 | これって、 |
| 1:31:53 | 入射角が異なる地震群なんですかね。入射角が大きく異なるとかだったらまだわからなくもないんですけど、その前の、今の定性的ないろんな、 |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 1:32:06 | 解析的なことをやっていて、さっきの、38 ページでしたっけ、にあるように、こういうの見ちゃうとですね。 |
| 1:32:16 | なんか、入射角によるばらつきで大して大きくなってそれよりも、何か構造的な違いの方がかなり大きく見えちゃうんですけど、そうすると何か 40 ページの入射角。 |
| 1:32:32 | 下異なるっていうものをする。 |
| 1:32:35 | スタッキングするのはあんまりよくないみたいな、これどうなのかなってむしろ入射角。 |
| 1:32:43 | よりも、何かこう構造が何か大きく違うようなものを、 |
| 1:32:49 | じゃないのかなという何かこの前のいろんな検討のところから思ってしまうんですけど、その辺りちょっと、 |
| 1:32:57 | どのように考えてらっしゃいます。 |
| 1:33:01 | 東京電力杉本ですまご指摘の点はおっしゃる通りで、入射角が大きく異なるもの同士をスタッキングすると結局 |
| 1:33:11 | 特徴的な特に後ろの方ですね後ろの方はやはり入射角が、 |
| 1:33:17 | 大きく異なる 10 度ぐらい異なるようなやつだとやっぱり、後ろの方でばらつきが出てくる、1 秒 1.5 秒以降くらいのところの山谷がやっぱりずれて、そこは入射角でずれてくるような傾向を見てとれてますんで。 |
| 1:33:32 | それがスタッキングしちゃうとつぶれちゃって、肝心の構造が見えなくなっちゃうと、いうことでこれはやはりその入射角がある程度類似する地震群を使ってスタッキングしないと、大事な情報がなくなってしまうと。 |
| 1:33:46 | いう考えで、なのでやはり入射角もある程度、その範囲の中のものを使って同定する必要があるだろうというふうに考えてますので、すみません宗そういった主事に、 |
| 1:34:00 | 記載の修正させていただきたいと思います考え方としてはそういったこととでございます。 |
| 1:34:06 | はい。規制庁佐口です。一応考え方はわかりました。で、あとちょっと 42 ページのところなんですけど、これ |
| 1:34:15 | 事実確認だけです。これを多分時間的な制約が、 |
| 1:34:20 | あるという中でのご検討だったと思うんですけど、72 ページの、特にこの右下の一次モードとか一だけをあと 5 次モードまで考慮して、 |
| 1:34:32 | やってもほとんど結局変わりませんよっていうんですけど、これって結局、ハードでこう計算をさせて比べて、 |

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 1:34:41 | 他だけで今今の地下構造だと 5 次モードまで考えても、大して変わんないんですけどもしこれが、5 次モードまで、 |
| 1:34:49 | 考慮した同定を行った場合は、 |
| 1:34:53 | これ変わってくるって考えていいんですかねそこまでするかしないかっていう話はちょっと置いといてなんですけど。 |
| 1:35:03 | 東京電力の藤岡です。 |
| 1:35:05 | 今回のコーダ部のフィッティングにつきましては、一次のピークの周波数のみということでフィッティングさせています。 |
| 1:35:15 | 高次モードの影響につきましては、 |
| 1:35:22 | 低周波数側の 0.1 秒のピークだけを対象としていますので、若干臨港でモードまで考慮した場合においても一次ピークを合わせるという感じにはこの、 |
| 1:35:34 | J P9 については工場求め考慮しても値が変わってないので、結果としては変わらないものというふうに考えます。 |
| 1:35:43 | ご回答は以上になります。 |
| 1:35:48 | はい。最後です。 |
| 1:35:52 | ちょっとよくわからなかったんですけど、 |
| 1:35:57 | フィッティングの、 |
| 1:35:59 | フィッティングの結果は、その一次のところは変わらないかもしれないんですけど二次三次のところは、場合によっては変わる可能性があるのかないのかという、 |
| 1:36:08 | その今フォワードで計算をしては、医師で一種してみると、二次とか三次とかの工事もモードもほとんど同じでほとんど変わりませんよってなってますけど。 |
| 1:36:17 | それはあくまでもフォワードで計算をしてるからそうであって、 |
| 1:36:21 | 実際には同定したら変わる可能性がそれが、ちょっと繰り返しになるんですけど、それを実施するかしないかはまたちょっと置いといてですよ。置いといて、 |
| 1:36:31 | 変わる可能性があるのかないのかっていうのをちょっと教えていただきかったんですけど。 |
| 1:36:48 | 東京電力の藤岡でございます。今 42 ページの右下の図で、一次モードまで考慮した場合と青線の子後次モードまで考慮した場合、 |
| 1:37:01 | については、1 地平 R z あたりで若干高次モードまで考慮した方が、運営に来るぐらいのレベルでありまして、 |

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 1:37:12 | 今回の贈呈につきましては0.1秒のほぼ同じところの計画を合わせるようなモデルを使っているということなので、 |
| 1:37:23 | 誤開とりあえず、 |
| 1:37:24 | ますでしょうかそその部分につきましては、考慮したとしても変わらない結果になるというふうに考えています。 |
| 1:37:35 | はい。規制庁沢口です。一応だから、 |
| 1:37:38 | 何ていうんすかね。もともとのその考え方というか、もともとは1一次のピークを合わせて要は深いところの速度構造をちゃんと拘束するんだという、 |
| 1:37:51 | 目的で使っているということを踏まえると、多分これは、特に1字1字だけ。 |
| 1:37:58 | てればよくなって、特にそこは見なくてもいいんじゃないでしょうかという、 |
| 1:38:04 | ご回答かなと思うんですが私もそれはそれでいいのかなと思うんですけど一応確認だけさしていただいたというところです。 |
| 1:38:11 | あと、 |
| 1:38:12 | 日ちょっと、これも事実確認なんですけど、117ページで、はぎとり地盤の花Cがありましたね。で、 |
| 1:38:22 | とか会合での言い方そのままやっておられたのかもしれないんですけども、これ。 |
| 1:38:31 | 確認だけなんですけど。 |
| 1:38:33 | 変えたのは、速度だけですが、いわゆるその地下構造モデルとして、この物性値っていうんですかね、粗相まるまる。 |
| 1:38:44 | 嘘速度も、それから減衰もそうなんですけど、含めて全部、 |
| 1:38:49 | 変えられたのかそれとも、 |
| 1:38:51 | 速度だけを変えられてるのかっていうのをちょっと確認させてください。 |
| 1:38:57 | 東京電力杉本さんは今回の件と速度だけ変えて、 |
| 1:39:02 | 減衰はいじってないです。 |
| 1:39:05 | はい。規制庁佐口です。そうすると、 |
| 1:39:08 | これ、 |
| 1:39:11 | やっていただいても、 |
| 1:39:13 | いいですし、 |
| 1:39:16 | 何か追記をしていただいてもいいんですけど、減衰を今回のケースに、 |

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 1:39:22 | 変えた場合はそのモデルとして変えた場合は、 |
| 1:39:27 | どういう傾向に。 |
| 1:39:29 | てかどういわずに、どっちのセンスになりそうです。 |
| 1:39:52 | 規制庁サグチさんの、いや、いや、実際にやった方が早いんだったらそっちの方がいいのかもしれないんですけど、あくまでもはぎとりモデルと今回のモデルの。 |
| 1:40:04 | によるはぎとりはの違い。 |
| 1:40:07 | ていうところをちゃんと示していただいて、企業家のこのはぎとりモデルでやった方が、いわゆる種地震として大きくなるんで、そっちのが保守的なんですよとかっていう説明だったらわかるんですけど。 |
| 1:40:21 | 今ちょっと中途半端にこの速度だけ変えられてもっていうところあるんでそこは、 |
| 1:40:25 | ちょっと何か、 |
| 1:40:29 | ちょっと計算するなり何か減衰、そのはぎとりモデルと、今のモデルの減衰の違いなんかを考慮した時にはこうなんですよみたいなのをちょっと付け加えるなりしていただけますでしょうか。 |
| 1:40:45 | やっぱり東京精密ちょちょっとすみません今ちょっと即答できませんので確認をしたいと思い、思いますはいます。 |
| 1:41:02 | すみません確認で申し訳ありませんご出資としては |
| 1:41:08 | 大深度モデルとして同定してる結果があるものをそのはぎとりモデルに反映した時にどういう違いが出るかということをちゃんと確認しておくべきだというご指摘。 |
| 1:41:19 | っていうのは、以前からの議論だと解放基盤のS波速度として変わってくるからどうなんだというお話もあったように思いますけれどもそこというよりはやっぱりモデルの連続性といいますか。 |
| 1:41:32 | 今回その250メートル以深で同定している古藤釜その他にというモデルに対してどういう影響があるのかをちゃんと確認すべきだというご趣旨ということでよろしいですか。 |
| 1:41:42 | 規制庁サグチさんまさにその通りですね何かちょっとSRS速度っていう、なんか言葉だけがずっとこう残っちゃってますけど、そうじゃなくってちゃんと今回、どう同定というか、作ったモデル。 |
| 1:41:55 | との連動、これまでの連続性も含めて、そういったちゃんと影響を確認してくださいという趣旨ですので、よろしく願います。 |
| 1:42:05 | はい、承知いたしました。 |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 1:42:27 | どっ規制庁の方です。 |
| 1:42:29 | さっきNaFMACCSの問題もう1回戻りすると、74ページの方で、 |
| 1:42:39 | まあ、73ページの方がPafMACCSが実際が一番の県水も含めて、 |
| 1:42:46 | これは誰でも引いてできないですね、含めて仮に考慮しない、何かちゃんぽんしてますね。 |
| 1:42:54 | 説明がちょっととれないではないかと一応感じてます。 |
| 1:42:59 | もう一つの方が多分、審査会合そこまで追及中なんですけど、 |
| 1:43:04 | 74中70、74ページの方で、 |
| 1:43:09 | 主に藤堂城軽度の差の方が |
| 1:43:12 | 特に中越沖地震の場合が、上軽度の方が谷田部内でそういうすぐに悪くないではないという印象がありますね。 |
| 1:43:22 | 逆に、 |
| 1:43:23 | 204年の中越地震の場合が、 |
| 1:43:30 | 3成分水平チョウケイ備え悪くないと。 |
| 1:43:34 | そうすると、 |
| 1:43:36 | うまく数の影響の |
| 1:43:39 | 受けてるの可能性解釈して、 |
| 1:43:43 | 全部かえってではないじゃないかなと感じてます。 |
| 1:43:49 | 何か議題の方が、 |
| 1:43:52 | 全部ファクスをもって全部解釈する非常なんではないかと感じててもそもそも、 |
| 1:43:58 | この近い観測点で超軽度評価そこを、 |
| 1:44:02 | SH尾野問題視本庁の間考える。 |
| 1:44:06 | 門型もありますから。 |
| 1:44:09 | すぐ無理やりFMACCSは全部店持ってきて、 |
| 1:44:13 | 説明する必要があるかどうかそこまで、 |
| 1:44:18 | 何か逆に、 |
| 1:44:21 | 統計クーランスを使うサイドから見るとこれがちょっとやり過ぎではないか何かの検討の方がちょっと、 |
| 1:44:29 | この考え方をもう1回確認したいと。 |
| 1:44:35 | 藤教授。杉本です。まず最初の衛藤説明が少し飛び過ぎではないかというところは先ほど谷さんからご指摘があったと思いますのでそこはちょっとちゃんと考え方が伝わるように、推計を修正をしたいというふうに考えてます。 |

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|--|
| 1:44:53 | 当間はM A C C Sで全部説明するのはおかしいんじゃないかというご指摘もそれもおっしゃる通りだというふうに思っています。 |
| 1:45:01 | ただここでお示ししなければいけないのはこの地下構造モデルが、その増幅特性として過小評価になるものではないんだということをちゃんとご説明しないといけないと。 |
| 1:45:14 | いうところでまずは非常に乱暴だと私も承知しておりますけれども、F M A C C Sを外した場合に、こういう増幅なんだと、いうことをまずしっかりご説明してこれもモデルが過小ではないかということをご説明すべきだというふうに思って今回、 |
| 1:45:30 | こういうご説明をさせていただいた。 |
| 1:45:33 | 本来そのS G Fでやっぱりその評価するようないとでしたらそのあとちゃんとこの検討を重ねなければいけないというところでおっしゃる通りだと、ご指摘は最もだと思いますけれども。 |
| 1:45:44 | そこは柏崎はこれあくまでそのS G FもE Fで評価している基準地震動の方調整確認用でやっていたという位置付けもありますんで。 |
| 1:45:54 | 今回はあくまで時価構造モデルにその増特性を確認することが目的ということで最後までちょっとちゃんご説明はできていないところではございますけれども、そういう考え方で今回F M A C C Sを外したときにどうかという検討を示させていただいたと。 |
| 1:46:12 | いうことでございます。あと中越と中越沖でちょっと大きさに違いがあるんじゃないか上下動の違いがあるんじゃないかというのは。 |
| 1:46:22 | 先ほど76ページでお示した通り少し合っていない周期体があってその影響が出てるんじゃないかというふうに分析をしているというところでございます。以上です。 |
| 1:47:08 | 規制庁タニです。 |
| 1:47:10 | 時間もオーバーしてますし、面談はこれぐらいにしたいと思ってるんですけど。 |
| 1:47:18 | いくつか資料を追加して、 |
| 1:47:22 | 説明いただく。まずは資料の方を追加したのを見さしていただきたいと思うんですけど。 |
| 1:47:31 | どれぐらい、今、いよいよ工程的にかかりそうですか。 |
| 1:47:37 | 東京電力杉本です急ぎ対応したいと思えますんでそんな時間は掛けずに対応します。 |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

| | |
|---------|---|
| 1:47:45 | 規制庁谷です。例えばあれですかその分、そんなについてというのは、今週中ではないけど来週ぐらいにはとかそんなイメージを、 |
| 1:47:55 | はい次、次の予定があると思いますので我々もゆっくりということを考えてないので、はい。 |
| 1:48:03 | はい。来週頭とかですね、今週、今週中ですか。来週後次のスケジュールにちゃんと載るかというところも含めて、 |
| 1:48:30 | 規制庁谷です。ちょっとまだはっきりところ答えられないところもあるのかもしれないので、めどが立った時点でもう一度連絡いただいて、それからちょっと確認させてもらって、 |
| 1:48:43 | ひょっとしたら必要に応じて面談とかも考えますので、連絡をお願いいたします。 |
| 1:48:51 | こっちしました。はい。 |
| 1:48:54 | あと東京電力からは何か、言っておきたいこととかありますか。 |
| 1:49:00 | 今後のスケジュール感としてはどのようにこちらとしては考えて、今よろしいでしょうか。規制庁田井です。はっきりこの日に開放できるっていうのは言えないんですけど、言えないというのは決まってないんですけど。 |
| 1:49:13 | 早いうちに会合と思っています。 |
| 1:49:16 | まずだから、資料見見させてもらって、 |
| 1:49:20 | 仮決め決めるってことになろうと思っています。 |
| 1:49:24 | はい、承知いたしましたありがとうございます。 |
| 1:49:43 | 規制庁タニそれでは面談を終わりにしたいと思います。どうもお疲れ様でした。 |
| 1:49:50 | ありがとうございました。 |

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。